

令和3年度第1回養父市立図書館協議会 会議録(要旨)

開催日時 令和4年3月25日(金) 午前10時～午前12時

開催場所 やぶ市民交流広場 大会議室

出席委員 9人

1 開会

2 委嘱状の伝達

3 館長あいさつ

4 自己紹介 <図書館協議会 委員名簿参照>

5 図書館協議会について

事務局から本協議会の位置づけについて概要を説明。

6 会長・副会長の選出

会 長 … 守本加代子委員 副会長 … 圓山茂夫委員

7 報告事項

令和3年度図書館事業について

(委員) 複写サービスとは具体的にどのようなものか。

(事務局) 図書館の資料を司書がコピーをとって渡すサービスで、コピー代はもらう。

(委員) リクエストというのは、新刊をリクエストするということか。

(事務局) 今までの公民館図書室だと、購入希望のリクエストを受けていたが、図書館は、基本的に購入希望は受けられない。資料の提供希望を受けられる。

(委員) どこで決定しているのか。

(事務局) 購入するか他市の図書館から借りるかは担当者会で決めている。

(委員) リクエストしてから相互貸借で借りられるというのは最長1カ月くらいかかるということか。最初から相互貸借で貸してくれと言えば、すぐ相互貸借になるのか。

(事務局) そうです。相互貸借だけで利用される方もある。

(委員) ホームページが入りにくい。最近は、何文字か入れるとすぐにそれに関連するものが出てくるが、これは使いにくいと思う。

(委員) ホームページを新しくするか、リクエストを紙ではなくてパソコンですとか、そういう中長期的な考えはあるのか。

(事務局) 今のところ、そのような考えはない。図書館だけでいけるものではないが、要望が強ければ、皆さんの使いやすいように考えていかなければならないと思うが。

(事務局) オンラインでのリクエストは、おそらく全図書館受け付けていない。リクエスト本の情報があやふやだったりするので、窓口で記入して受けるのが原則。

(委員) この本は購入する・しない。または、いつ購入するかどうやって決めるのか。

(事務局) 18歳未満のリクエストは汚す可能性があるため、相互貸借が難しく、原則購入。新刊も購入の方向で進む。専門分野で同じ分類のものを5冊一気にいう場合は、相互貸借。

(委員) 子育て世代と子ども、仕事が忙しくて図書館に行く暇がないという40・50代をどう取り込むかが大事。後は、八鹿高校生をどう深く結びつけていくかを考えていく。

(委員) 外から帰ってこられた人や読み聞かせの活動をされている方のネットワークができて、図書館と関わりを持って、読み聞かせとか、ブックトークみたいなものが出来たらいいと思う。もう一つは、養父市には郷土資料・古文書が沢山あるが、いずれデータ化されて、ここで見られるようにならないかなと思う。

4 各委員からの提案

(委員) この図書館の使命というか目的は何か。それによって、本を読む人を増やすのかここに立ち寄る人を増やすのか、基本的な図書館の役割を考えたい

(事務局) 本の貸し借りで利用者が増えるというのも目的ではあるが、人が集える場所になり、図書館と市民がつながっていくようなことが出来たらいいと思う。

(委員) 車がない人間は動けない。ここに来なくても、各旧町を窓口の本館から本を借りられたらいい。小さいころから書物に親しむことが、生きていく中で物事を判断するときを活かせると思っている。だから本好きな人間・子どもたちをつくりたいし、大きくなってからでも、何かあったら本から学ぶものが多いという人が多くなるのが目的ではないか。そういうものだったら、数字とかは徐々に上がっていくと思う。

(委員) 私の提案は、4つ。一つは予算の確保。ふるさと納税には寄附する人が7項目選べるようになっているが、芸術文化、伝統文化、福祉のまちづくり等漠然としている。そこに8項目目に、市内の学校図書室、市立図書館の図書の充実という項目を入れたら、寄附する人にとって、漠然とした伝統文化よりも、寄附したお金で子どもたちや市民の人のための本が増えると具体的に出てくるから、すごくチェックしやすい項目になる。市長がOKすればできる話ではないかと思う。

2つ目は、貸出と返却の場所をもっと増やす。守秘義務を負ったところでないと頼めないと思うので、そこにバーコードの機械を置いて、小中学校の事務職や郵便局で貸出返却を頼めないか。郵便局は包括連携協定ができたところだと思うので、その郵便局で頼めばいける気がする。

3つめ。読みたい本は、予約すればどこの館でも借りられるというシステムを但馬中に広げてほしい。今は、システム的にできないのは知っているが、但馬の広域行政協議会に提案して、但馬中で一つの図書館構想みたいな感じで、養父市の貸出カードで豊岡や朝来の図書館にある本が予約・取り寄せできて、ここや地元の郵便局で借りられるというところまでいけば、利用し易いかなと思う。

最後に、市民が寄付したいけど、今断っているという。人手不足のため、蔵書をタ

ダで増やせるのを断っているのと、市民が皆さんに読んでほしいという気持ちを断っている点と2つもったいない感じがする。職員は増えないので、ボランティアに週に1日か月に2日か来てもらう。貸出はプライバシーが絡むのでできないが、受入・登録・ラベル貼り等はボランティアが行う。ただ、素人では困るので、研修費を市に出してもらって研修して、ある程度トレーニングされた方が市民司書みたいになって、寄付本の受入・登録などを行い、貸し出し可能にしていくのはどうか。

(委員) 読書会をこの図書館と結びつけて数を増やして、本を読むのが好きな人の出会いをつくってはどうか。

(委員) 市のホームページでふるさと納税が、一昨年の数字はまだ何億円も余っているし、ざっくりとした使い道しか載っていない。まだ未分類の本があるということだが、今書庫にある未処理本の処理に、どれだけ人手が必要で、費用がいくらかかるからふるさと納税でくださいというのもあると思う。

他の分館は市役所の業務と図書の業務が兼務だ。そこをもうちょっと充実させるためにもふるさと納税とかを活用して、いい本をどんどん出してもらいたい。

この協議会に40代より下がない。高校生以下の世代が図書館をどのように利用しているかという情報を広報とかホームページで発信して、同じ世代や上の世代に伝えていけば、図書館に来ようかなという気になると思う。

あと、遠くて来られないという方のために宅配を利用したらいいと思う。また、どういう本を読めばいいのか分からない人には、こういう本はどうかと提案できるように司書の人数を増やしてほしい。

あとは、ネットの活用法を教室・講座とかでしたらどうか。普段図書館に来ない人もカバーできるような図書館になったらいいと思う。

(委員) 広く活用されることが大事。図書館に来にくい人のためにも電子書籍とかもできるようにしてもらいたい。ネットも利用できない人の受け皿も考えた、だれもが利用し易い図書館であってほしい。

(委員) こちらに帰ってくるまで風太郎の本を読んだことはなかったが、顕彰会などで知って読み出すと、先入観とは全然違った。さらに大変な読書家だった風太郎が、読んだ本のことをいろいろ書いていて、そこから別の作家にも広がっていった。風太郎はあくまで一つの入り口だった。今後、この図書館で風太郎をいろんな意味で取り上げてもらって、読書会などをきっかけにして読書の世界に関心を持つ場にしてほしい。

(委員) 風太郎に限らず、大屋には上垣守国、八鹿には池田草庵、作家の村上勉と、養父市出身にはいろんな方がいる。そういう方たちも大事にしていきながら、できるところから手を付けていって、一般市民ができることを募ったらいい。養父市には人材が沢山いると思うので、そういうのを活用して、ちょっとずついい図書館にしていけたらと思う。せっかく入ってもらった司書と私たちの距離が短くなるように運営していけたらと思う。